

さはら吉大が とちぎを変えた (代表例3例)

抗インフルエンザ備蓄薬使用期限延長と有効利用

新型インフルエンザ対策の一環として抗インフルエンザ薬であるタミフルを35万6400人分とリレンザ4万人分を県内に備蓄保管しています。金額にして約8億7000万円になります。国も同じ量の備蓄保管を行うことになっていますので、全国で約700億円を備蓄薬につぎ込んでいます。備蓄自体に異論はありませんが、当時7年過ぎると全ての“薬が産業廃棄物”になってしまいました。そこで、“市場流通と備蓄薬の効率的利用法と抗インフルエンザ薬の使用期間延長を訴えました。”この問題を衆議院厚生労働委員会でも取り上げていただき、平成25年10月より“期限が3年延長され使用期限が10年になりました。”今後も“大切な税金”を使う“有効な備蓄薬使用方法を訴えて参ります。”

プロフィール



ふりがな さはら よしひろ
名前 佐原 吉大
生年月日 昭和42年8月13日
略歴 河内町立古里中学校卒業
愛知医科大学卒業
自治医科大学付属病院
整形外科入局

県立中学校入試に於ける抽選の廃止

県内には3カ所の併設型中等教育学校が設置されています。平成19年に設置した県立宇都宮東高等学校附属中学入学者選抜方式において小学校からの調査書・適性検査・作文・面接により、総合的に適正であると判断された入学候補者に対し男女同数程度の“入学者を抽選”にて最終決定がなされていました。平成25年6月議会において“抽選での2次選考は廃止すべき”であると訴えさせていただきました。入学者選考に抽選を取り入れている県は全国でもほとんどなく、“頑張りが報われないことこそが不公平”であり、子どもの“やる気と頑張りに反する”ものであると考えたからです。平成27年度県立中学入学者選抜方式から“抽選がなくなり、今までよりも頑張りが報われる選抜方式に変わりました。”

現在 日本整形外科学会専門医
日本整形外科学会スポーツ専門医
日本整形外科学会リウマチ専門医
産業医
医療法人大桜会 さはら整形外科院長
特別養護老人ホーム 祥豊苑理事長
野沢保育園理事長
上河内幼稚園理事
さくら保育園嘱託医
介護支援専門員

とちぎリハビリテーションセンター手術再開と機能の充実

とちぎリハビリテーションセンターは、医療・福祉を網羅する複合施設として期待されておりましたが、平成22年度から“2年間、執刀医の問題で手術が行われていませんでした。”自治医科大学整形外科の協力により“週1回の医師派遣が実現”し、平成25年度からは手術を行える医師が自治医科大学整形外科から派遣され“手術が再開”されました。現在は、自治医科大学整形外科学・星野雄一(元)教授が自治医科大学からとちぎリハビリテーションセンターの所長に就任され、今まで以上に多様化するニーズに応えられるリハビリテーションセンターにより進化すると確信しております。

● 県道小林逆面線が広くなります ●

